

北 どころ本

第13号 2017年4月1日 (毎月1日発行)

県北現代小史① 庄原百働会 ひやくどう

「百歳まで働こう！」

百働会の名前に惹きつけられた。百歳まで生きるのでなく、百歳まで働くのが目標。高齢者の経験と知識をトコト活用する。元気でなければ活躍できない。病気で寝込んで



でいる暇などないのだ。高齢者が健康であれば、健康保険の医療費は大幅に削減できる。国の借金が減って、日本中が元気になる……。

私事だが、わたし(記者)は来年、還暦を迎える。「百歳まで働くぞ」と宣言してみる。心身に力が増える。元気が出てくる。「あと四十年もある」、熱い血潮が満ちてくる。活動は文化や趣味の世界でもい

い。百歳まで働こう会(百働会)は、昭和三十一年、広島市で誕生した。原爆でいったんは廃墟と化した広島で、今こそしっかりしなくてはならない。自己の自覚と社会への献身のため、百歳まで働こう」という決意表明

「百歳まで働こう会」(百働会)は、昭和三十一年、広島市で誕生した。原爆でいったんは廃墟と化した広島で、今こそしっかりしなくてはならない。自己の自覚と社会への献身のため、百歳まで働こう」という決意表明

だった。初代会長には、当時広島大学長だった森戸辰男(後に文部大臣、故人)が就任。その後、活動は全国に広がり、海外にまで支部ができていた。

花心大学は現在、休校中であるが、その精神は「庄原文芸」(庄原市文化協会発行の文芸誌)や「庄原詩話会」(詩誌「KAITUBURI」発行)、「思索の会」(思想哲学の研究会)等々の活動に受け継がれている。

○一二年新春親睦会。百働会誌「長春」より転載) 庄原支部の初代会長は、当時の庄原市長の三上唯雄さん。約六十名の会員が集まった。全国的に老人会や老人クラブが組織される前で、定年後の社会活動をサポートする役割を担っていた。四十代、五十代の会員もいたという。

庄原百働会の事務局長の四水薫さんは、国利会長(当時)が参加した青森・八戸市での全国大会のことをよく覚えている。九十歳と高齢だった国利さんの体調を心配して同行したが、心配は無用だった。現在、四水さんは九十歳、「まだまだやれるよ」、国利さんの声が増えてくるようだ。国利さんは数えきれぬと百歳の時に逝去。

「百歳まで働こう会」(百働会)は、昭和三十一年、広島市で誕生した。原爆でいったんは廃墟と化した広島で、今こそしっかりしなくてはならない。自己の自覚と社会への献身のため、百歳まで働こう」という決意表明

最盛期には国内外でおよそ八千人の会員がいた百働会だが、会員の高齢化や死亡により会員数が減少、老人会や老人クラブ、生涯学習のシステムなどが整備されたことで新規入会の数も伸び悩んで、全国組織としての活動は平成十九年に終了。国内の七つの支部は独立したが、相互に連絡を取り合っている。

もっとも精力的に活動しているのは玉島百働会(岡山・

倉敷市に本部)で、平成二十二年にはNPO法人の認可を取得。昨年の四月には、「第一回玉島百働会まつり・玉島百働会創立五十周年祝賀会」が盛大に開催された。そのとき、滝澤房子会長は百歳だった。

庄原百働会も健在だ。会長の渡邊正勝さんは百歳、副会長の田中虎市さんは九十六歳。田中さんは本誌の昨年九月号「県北群星伝④」で、毎日の気温測定の結果を紹介させていただいた。庄原百働会は、今は親睦がメイン。研修をかねた旅行などの活動をしている。新規会員も募集中。連絡先は、☎(〇八二四) 七二—四七八二(四水薫)。

百働会の会員ではないが、「県北群星伝②」で登場していただいた富久正二さんは今年の一月で百歳になり、十月に開催される全日本マスターズ陸上大会では、M100(男子百歳から百四歳のクラス)で100キロ走の世界記録を目指している。賞状の揮毫や宛名書きなどの筆耕の仕事もいまだ現役、「百まで働こう」は夢物語ではない。

「六十、七十は漢垂(はなたれ)小僧、男ざかりは百から百から」、百七歳まで生きた彫刻家の平櫛田中の言葉である。

図書館員ノート⑧

「四十とつと惑いつつまあ…」

三次市立図書館の職員になって三度目の春を迎えた。

図書館員として入社が決まった時、上司に「図書館は、本の貸し出し返却だけの楽な仕事と思われるがちだが、それはちがうよ。」とい

われた。

そして、その言葉の意味はすぐに実感し、驚いた。カウンターでの利用者とのやりとりはもちろんだが、図書館の活動は図書館内の仕事にとどまらず幅広く、そしてパワフルなのだ。

毎月三次市内の何処かしらの図書館でお話会や楽しそうなイベントが行われている。イベント企画は、職員が多くの市民の方に参加してもらえるよう知恵をしぼって考えている。

先月も市民ホールきりりで、親子で楽しめるイベント「おはなし音楽会 もっと！」を開催した。音楽と絵本のコラボレーションで、春にむけての絵本を図書館職員が読み、その声に楽器の音色をのせることで新しい絵本の楽しみ方を提供した。大勢の前に出る事にな

れない私も演者となり、手に汗びっしりで、夢中に一時間のイベントを行った。

でも、参加者からは「楽しかったよ！また、やってね！」と笑顔で声をかけてもらうと、嬉しくって目頭が熱くなる。

図書館員になり経験する沢山のことで、改めて人とのふれあいの大切を感じる毎日。様々な目的で図書館に来館するもよし、イベントに参加するもよし、図書館をコミュニケーションの場として活用してもらいたいと思う。

新しい企画に挑戦するとき、悩みはつきものだが、悩まない人は成長しないそうだ。まだまだ成長期の私。

悩むことさえも楽しんで、これからも利用者の顔を思い浮かべながら、ワクワクしてもらえる図書館作りをめざしてがんばっていききたい。



『沈黙の春』

——自然を見る目に激変を与えた

本というのは不思議なものです。読書は、本が発するメッセージを受け取り、感動するのが本来なのでしょうが、その他にいろいろな動機が加わっているのです。レイチェル・カーソンの『沈黙の春』は決して易しい本ではありません。でも、世界のベストセラーになりました。

私もそれゆえ辛抱して読みました。いま、若い人が発売と同時に並んで世界的作家、村上春樹の小説をゲットするのと似ています。世界の最先端の息吹に触れたいという動機があると思います。

『沈黙の春』は、農薬散布の被害の数々を例証し、環境問題に火をつけた作品です。題名は文学的ですが、中味はppmとか塩化炭化水素とかDDTなど化学薬品名とか化学式が出てきて、高校の化学の教科書みたくです。1962年に米国で発刊されたたちまちベストセラーになり、2年後に日本でも訳書が出ました。これを受け次々ように、作家有吉佐和子の『複合汚染』（上下巻、75年刊）が新聞連載されて大きな反響を呼

び、各地で農薬反対、食品安全の市民運動が起こりました。

カーソンは米国の漁業局に長年勤

また読んでみたい本⑬

青年たちに

音谷 健郎



古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介しています。

今回からは、「青年たちに」シリーズとして、トップバッターは、レイチェル・カーソンの『沈黙の春』です。ぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を歴て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

ア」には「沈黙の春」の項目がもうけられ、農薬の危険性を「この本で初めて警告した」と評しています。

カーソンは最終章でこう述べています。「私たちは、いまや分かれ道にいます。（中略）長いあいだ旅をしてきた道は、すばらしい高速道路で、す

チャンスがあるといえよう」。この道とは、毒のある化学薬品を避ける道、環境への洞察の道なのだ。

この本が出た頃には、まだ庄原の周辺の野山にはイナゴやバッタ、それにテントウムシやカミキリムシ、ハンミョウがいくらでもいて、手をつかむことができませんでした。だから、生態の破の結果である沈黙する春は、どこか遠い国のこと、あるいは近未来のこととして受け止めていました。だが、いつの間にか忍び寄ってきています。

ひと言つけ足しておくこと近年、人体へ被害が少なく、昆虫の体や生殖を阻む農薬が開発され、農薬禍の騒ぎが鎮静したように見える。だが、昆虫がいなくなるということはどういうことだろうか。

もし、皆さんが「沈黙の春」の実感がないとすれば、すでに昆虫たちが沈黙した中で育ち、これが常態だと思ひ込んでいることになりました。

務した海洋生物研究者です。出版の後、生態系の破壊が危惧され、各国で農薬の規制が急速に進みました。

先端分野のことなので、今では科学的なミスも指摘されていますが、それ以上に重要な警告が盛り込まれています。電子辞書の「ウイキペディア

ごいスピードに酔うこともできるが、私たちはだまされているのだ。その行きつく先は、禍いであり破滅だ。もう一つの道は、あまりへ人も行かないが、この分かれ道を行くとき

にこそ、私たちの住んでいるこの地球の安全を守る、最後の、唯一の

この春、花見ついでに周りの雑草に目をこらしてください。さらにもし、昆虫がいなくなれば、鳥、へび、野ネズミなどの小動物に食物連鎖して、やがて人間は殺風景な自然環境のなかに裸で孤立することになります。

虫と草木と人びとと① 中村慎吾

「野草を楽しむ―摘み草の楽しみ」前編

著者紹介…一九三一年、比婆郡（現・庄原市）比和町に生まれる。農学博士（九州大学）。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びとと」（シンセイアート出版）から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

野草の楽しみ方には、さまざまな途がある。散策の道すがら素朴で可憐な野の花を愛でるのも楽しみ方のひとつであろうし、鉢で育てることも風雅なことである。一方、「花より団子」のたとえではないが、野草を鑑賞の対象よりは、味を通して食べるという楽しみ方も野草に親しむという別の途である。今では「山菜」ということで、すっかり風雅なこと、郷愁をそそる趣味的なこととなった「野草を食べるといふ楽しみ」も、それは決して、風雅なことでもなければ、趣味的なことでもなく、かつては人々の生活の一部であり、季節を彩り生活に潤いをもたらす風物詩でもあった。

人間が自然とのかかわりを持つ中で、最初は衣食住、生活の糧として植物を認識して、かかわりを持ち、やがて、遊びの対象―鑑賞の対象として、かかわりを持つようになる

いう歴史的な過程を経ているところからみて「野草を食べる」という野草へのアプローチは、楽しみ―親しむということの根源にかかわることでもある。野草を食べるといふ楽しみ、いいかえると摘み草が、生活の一部であり、季節を彩り、潤いをもたらしていた風物詩であったことは、萬葉集の中の歌からも読み取れる。

萬葉集に収められている数多くの歌の中に、例えば

春山の咲きのををりに若菜つむ
妹が白紐見らしくよしも（巻八）

明日よりは春菜採まむと標めし野
に 昨日も今日も雪はふりつつ（巻八）

春の野にすみれ採みにと来しわれ
そ 野をなつかしみ一夜寝にける（巻八）

春日野に煙立つみゆ娘子らし 春

野うはき摘みて煮らしも（巻十）

（いづれも高木市之助・五味智英・大野普校注『萬葉集』日本古典文学大系5、岩波書店刊による）

などがあり、萬葉の時代の人々とつて摘み草は大切な生活の一部であり、長い冬を耐え、再び訪れた春に、生命の賛歌を感じ、生命の復活を寿いだもの、その想いがひしひしと伝わってくる。この歌に登場しているうはきは、きとはヨメナのことであり、古くから食用として利用していて、例えば、貝原益軒の「菜譜（巻之下）」（宝永元年―一七〇四年）にも「よめがはぎ 宿根より春苗を生ず食すべし。香ばしく味少ゑぐし。家園野圃道傍にも生ず。秋花ひらく。野菊に似たり」（八坂書房版―一九七三年―による）と、解説されているほどである。すみれについてはどの種類をさすか特定できないが、路傍や山裾に最も多

いたチツボスミレかも知れないし、吾妻山に多いブナ林床に生育するサラインスミレサイシンは、根がトロイモ状に粘りがあり、ヤマイモと同様に利用されていたところからみて、萬葉の昔、林床のスミレサイシンも採取していたかも知れない。

閑話休題、摘み草は萬葉の昔から、そして、ごく近年前まで農山村では日常的なことであり、生活の一部でもあった。この摘み草の風習が姿を消した後、飽食の時代といわれる今日、「山菜」という形で蘇生したものが、かつての摘み草ではなからうか。そして、「山菜ブーム」といわれる過熱な状況が生み出された背景に、過密化した都市での自然喪失がもたらせた都市住民の自然への回帰心、農業技術の革新で年中豊かに出まわることが可能になった野菜による人々の季節感の喪失、生活の向上・安定に伴う倦怠感にひそむ変化・刺



ヨメナ

正宗巖敬著「日本の植物」第六巻II
(高陽書院刊、1973年)より図を模写

激への願望、余暇ゆとり増加に伴う趣味的世界への耽溺が可能になった生活様式、……などが考えられる。要するに見かけの豊かさに対する不満感、安定の中にひそむけだるさが山菜ブームの引き金となっているようだ。

年代に入ると、山菜という名の解説書や図鑑が続々と生まれ、山菜うどん、山菜おこわなどが山の食堂のメニューに登場してくるようになる。食糧難下の戦時中、「食用植物」という名称で野草の利用法を解説した手引書が出版されていたのは全く対照的で、山菜という言葉のひびきの中からは、救荒的なイメージはなく風雅さが伝わってくる。

(次号に続く)



【売ります!!】

業務用冷蔵庫。希望販売価格 5,000 円。大きさは縦 95 センチ、横 63 センチ、幅 43 センチ。製造年月日は不明。

2 年半ほど前に福山のリサイクルショップで 16,000 円で購入。実際に店内で使用しているものですが、ジュース類の売上がのびないので売却を決断。庄原の近隣であれば配達可能。

連絡先：アカガワ ☎090(9913)3052

【買います!!】

絵本、郷土史関連本、高価購入。とくに郷土史関係の書籍は、ガリ版刷りであったり、製本が手作りであったりと見栄えはよくありませんが、貴重な資料が含まれていることがあります。棄てる前に一度ご来店ください。

連絡先：どら書房 ☎090(9913)3052



【あげます!!】

家庭用の椅子式ポータブルトイレ。母親の介護で 10 年間使用したものです。まだ十分に使用できます。庄原の近隣であれば配達も可能。

連絡先：アカガワ ☎090(9913)3052

※掲載無料、みなさまの情報を募集しています。

(まったく、何を考えてるんだか)

タクシーの車窓の外を眺めながら、里子は娘の真里亞のことを思った。三年ぶりに帰国した娘は、名前がマリへ・モハメッド・アブダラファ・アル・ムダファアラに変わっていた。ヘジャーブという白いスカーフを頭に被っている。

三十代の半ばで独身で、周囲から「男嫌い」と思われていた真里亞の突然の結婚宣言。相手はハッサン・サウド・アル・ムダファアラというシリア人で、なんと三人の子持ち。フランス北部の難民キャンプでボランティアをしていて、通訳の彼と親しくなった。

ハッサンは敬虔なイスラム教徒で、真里亞もムスリムに改宗して、名前を変えた。確かに、イスラム教徒がマリアという名前では問題がある。マリへはハッサンのつけた名前で、アラビア語で「美しい」という意味があるらしい。

(アランドロンのような彼氏を連れて来ると思ったのに)

写真のハッサンは口髭を生やして、「アラビアのロレンス」のオマー・シャリフに少し似ている。

最初から説得は諦めている。言いだしたら聞かない頑固な性格は母親

譲り、そう、自分とよく似ている。(うちは代々、男運がないからね)

里子の母親の佳代は、中国山地の山間にあるこの土地の、貧しい小作農家の生まれだった。野良犬の肉がご馳走だったというからすさまじい。口減らしもあって、中学を卒業すると集団就職で上京した。

里子は私生児だ。父親のことは何

命に里子を育ててくれた。

文庫本に挟んだ古い白黒写真を取り出した。緋の着物を着た若い女性が写っている。今は養老院に入っている佳代に見せたら驚いていた。従姉の女性だという。笑顔なのだが、どこか悲しそうだ。右目の下にある泣きぼくろのせいかもしれない。

「和佳子お姉さんに間違いない。確か、

が駄目だった。

「着きましたよ。車で行けるのはここまでです。川のほとりに遊歩道がありますから、歩いて行くと写真の場所に出ます」

タクシー料金を精算して、土手の階段を上がった。川面を渡ってくる風は冷たかったが、春の日差しが心地良い。川べりの遊歩道に降りて行くと、水辺で鴨の群れがたむろしている。

(貝原先生に似ていたのよね)

真里亞の父親の顔を思い浮かべた。貝原先生は里子が小学生だった頃の担任教師で、里子の初恋の人だ。ファザーコンプレックスもあったのかもしれない。だから、里子も小学校の教師になった。

音楽の授業の時に、音楽室にある打楽器を並べて、好きに演奏してみろと言われた。シンバルやカスタネット、トライアングル、小太鼓、そして何故か木魚があった。両手に握ったスティックをふるって、無我夢中で叩いた。拍手が起った。みんなに褒められて、音楽が大好きになった。

凶工の授業のときに、目の前の材料を使って、好きにデザインしてみ

「タイムマシン」 亜木冬彦

あきふゆひこ
現代御伽草子 ⑫

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

も知らない。母親の佳代も、詳しいことは知らないのではないか。

「あたしがね、あの人の子供なら産みたいと思ったの。それで十分じゃない」

気持ちがよくわかる。里子もシングルマザーだ。一時の恋の代償であれば、処置することもできたはずだ。それこそ身を削るように働いて、懸

結核で若くして亡くなったはずだけど……。あなたがどうしてこんな写真を持つてるの?」

強張った顔をしていたのだろう。口ごもった里子を、それ以上は追及しなかった。

「それにしても、あなたの若い頃によく似てるわね」

里子は、笑顔を浮かべようとした



ると言われた。新聞に載っている顔写真をどんだん切り抜いて、それを画用紙に貼って大きな木をこしらえた。どこかで見たような気がするな、先生がぼそりと言った。悲しくて、図工の時間が嫌いになった。

遊歩道の先に、白い看板が見えた。「ギリシタン灯籠」と書いてある。説明書きを読んだ。キリスト教が禁止されてから、信仰を隠すために作成されたものだという。この土地にも、隠れギリシタンがいたということか。

右側の崖の一部が穿かれて、石組の土台の上に、石塔が建っている。

灯籠としては、笠石と竿石との間にあるはずの火袋がなく、胴の竿石には仏像が刻んである。写真の女性の背後に写っている灯籠に間違いなかった。

ただ、明らかな違いがある。目の前の石灯籠は周囲を鎖で囲まれているが、写真の灯籠に鎖はなかった。

母親の従姉である和佳子は、クリスチャンだったのだろうか。結核の死の影に怯えて、信仰に救いを求めたのだろうか。しかし、それなら教会で礼拝すればいいわけで、わざわざこんな人気のない場所に来た理由は何だろう。

コータがこの写真を撮ったのだ、里子はそう直感した。コータと出会ったときのことを思い浮かべた。ホームレスのような薄汚い格好で地べたに蹲っていた。視線が合った。思ったよりも若い。男がびっくりした顔で立ちあがった。「ワカコか？」

里子に迫った。しかし、大きく見開いた瞳から炎が消えた。それから崩れるように倒れた。あとで訊いたら、もう三日も水しか飲んでいなかったそうだ。

コータは体力を回復すると、里子のアパートの部屋から忽然と姿を消

した。残していったのは一冊の文庫本だけだ。古い写真がはさんであった。文庫本の題名は「タイムマシン」、H・G・ウェルズの古典的なSF小説だ。奥付に、「二〇四五年四月十八日発行」と記してある。

里子は、ギリシタン灯籠を見上げたまま、その場に佇んでいた。川のせせらぎが聞こえるだけだ。何も起こらない。期待していたわけではないが、やはり落胆していた。

近くでウグイスの鳴き声が聞こえた。若鳥なのだろう、まだ片言だ。「よし、帰るか」

踵を返した。春休みが終わったら、また新入生が入ってくる。

※【ギリシタン灯籠】三次市尾関山のふもと、江の川のとりに安置されている。伝承では、元・西江寺にあったものが、ギリシタンの弾圧がきびしくなると江の川の大渦淵（おおうずふち）に投げ捨てられた。その後年、川底から引き上げたと言われている。竿石（胴体）に刻まれている仏像には異色の足があり、観音様に似せたマリア像だという人もいるが、このタイプの灯籠は全国に点在しており、隠れギリシタンとは関係ないという文献も存在する。

まちの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日
- 営業時間：9:30~19:00
- TEL: 090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 1,5000円 >



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「リトル・トリー」

フォレスト・カーター 著 めるくまーる

リトル・トリー（小さな木）は、インディアンとしての名前である。5歳のときに両親と死別したリトル・トリーは、チェロキー・インディアンの祖父母に引き取られる。慎ましくも豊かな山野での日常が、詩情豊かに描かれている。祖母の語るスピリット・マインド（霊の心）の話が、心に響く。ボディ・マインド（からだの心）の欲望に負けると、霊の心はどんどん縮んでしま



い、「生きていくせに死んでる人ってことになるの」。

作者については後年、人種差別主義者だった等々の批判があるが、作品は読者のもの。1991年第1回 AABY 賞を獲得。選考基準はただ一つ、「それを売ることによって書店が最も喜びを感じた本」。

「住宅顕信全俳句集全実像」

池畑秀一 監修 小学館

「ずぶぬれて犬ころ」の句に、心を鷲掴みにされた。伝統俳句とはまったく違う「自由律俳句」、雨に濡れて震えている野良犬の姿が見えるようだった。その野良犬は作者であり、また読者の姿でもあると思った。

住宅顕信は、25歳の若さで夭折している。10代の頃は暴走族でヤンチャをしていたが、やがて仏教に傾倒、浄土真宗の僧侶となる。



結婚して家庭を持つが、白血病を発病して離婚、病室で長男の面倒をみながら句作に励む。

わたしの中での野良犬は、雨に向かって絶叫するように咆哮している姿に変貌した。「夜が淋しくて誰かが笑いはじめた」、表題に使われている句である。

「香水」

パトリック・ジュースキント 著 文藝春秋

「ある人殺しの物語」の副題。超人的な嗅覚を持って生まれた孤児、ジャン＝バティスト・グルヌイユの奇想天外な物語。

グルヌイユは香水の調香師として成功をおさめるが、人に好意を抱かせる香水や、人を疎んじさせる香水、人に気配を悟られない香水等々、それを嗅いだ者の心を意のままに操る香水を密かに制作。やがて、人体から香りを抽出するために、若い女性ばかりを狙った連続殺人事件を引き起こす。



にのいの魔術師として君臨するグルヌイユだが、自身は無臭だということに懊悩する。体臭を否定する現代社会への皮肉だろうか。1987年度世界幻想文学大賞受賞。

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

どらくる俳壇

花の山徳利下げて郷土史家

近藤 昌平

木々芽吹く納屋に前世の木挽鋸

原博己

炊き立ての飯に割たる寒卵

片岡 正人

冬と春行ったり来たりの通学路

隆愚

古時計五分遅れの春が鳴る

赤川 冬人

投稿&寄稿

「樹温」

富久光

「テリトリー」

M・A

新しい切株に腰掛けてみませんか
どうです冷たさそのものですが

樹の冷たさは呼吸している
冷たさです

生きている証です
生きている人間の温かさ
同じだろうと思います

樹温は冷たければ冷たいほど
好きです

人間の心は温かければ
温かいほど好きです

樹温と私の心は
何時も直通電話なのです

※投句を歓迎します。

今月のどらちゃん



絵・風太

フキノトウは道端によく芽を出
ていて、それも親戚の家に持って
行った。フキ味噌にして食べるの
が、少し舐めただけで苦くて吐き
出した。こんなものが食べ物とは思
えなかった。それに、当時は野良犬
がうろろうろして、道端でウンコ
や小便をしていた。舗装している道
路が少なかったもので、放っておい
ても虫やミミズが食べて、土に還っ
ていたのだろう。

私は、親戚のうちのトイレが苦手
だった。家の外にあるのだが、ポツ
トン便所で、小の方でも臭気がひど

い。野原でするのがだが、どうい
うわけか少し穴を掘って、石で囲って目
印をつくる。そういう自分専用のト
イレ場がいくつあって、まるで巡
回するように利用していた。他の子
供は、適当な場所ですませていた。

後年、テレビの番組で、野生の虎
が自分のオシッコを木に嘖きかけ
て、自分のテリトリーを主張してい
る姿を見て苦笑してしまった。子供
の頃の手作りのトイレは、自分のテ
リトリーだという意思表示だったの
ではないか。ある意味、「野生児」
である。

どら書房 委託販売コーナー

★「天馬書林」

新書の教養書と戦争関連本、ノンフィクション
が充実。

★「サワちゃん文庫」

中国、日本の歴史書、思想書が中心のライン
アップ。

各専用棚で好評販売中!

四隅突出型墳丘墓 その1

よすみとつしゅつかたふんきゅうぼ

文責・寺岡隆行

古墳といえ、前方後円墳と円墳と答えられる方が殆んどですが、こ

れは、古墳時代（四世紀～六世紀）のお墓です。その古墳時代の前の弥

生時代（BC三世紀～AD三世紀）のお墓が、庄原市高町と宮内町にある事が近年になって判明しました。

その形は、正方形から長方形のもので、そして、四隅が突き出した

型に変わってきたものです。

約二百年の間に、築造方法が変わった事が判る種類の墓が、一か所にあるのは、全国でもここだけです。

名称を「四隅突出型墳丘墓」と呼ばれています。

弥生時代中期末葉から後期初頭のものである事が判りました。

約二千年前の豪族、或いは地域の支配者のお墓と言われています。

最初は正方形の盛り土だけで周囲に溝が掘ってあった様（方形周溝墓）

です。その後、長方形の盛り土になり、上に石を貼り付けてきた様です。そ

して、四隅に張出しを付けて、祭祀のため上って行く道に利用したと想像されています。

昭和六十一年に、庄原から西城方面に行く国道183号線のバイパス

工事が行われた際、(財)広島埋蔵文化財調査センターの発掘調査によっ

て、宮内町と高町の境あたりで、初めて見つかりました。

以後、庄原市教育委員会と広島大学文学研究科考古学研究室の合同により、平成九年、平成十九年～平成

二十四年の連続調査、平成二十六年から毎年の補足調査により、高町の

佐田谷（さだたに）1号、2号、3

号と宮内町の佐田峠（さだたお）1号、2号、3号、4号、5号の8基が見つかっています。

両墳墓群は現在、国道183号バイパス二本によって分断されていますが、もともとは、同一の尾根上に

立地する一体の遺跡群です。

（以下、次号につづきます）



周辺分布図

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

- 一 硬式テニス参加者募集 一
- MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)
- 場所：三次運動公園の屋内&屋外コート
- ・火曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・水曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・土曜日 (12:00 ~ 14:00)
- 連絡先：中川 (☎080-5610-2376)

陶芸 教室

洲澤陶芸教室 (電動ロクロほか成形全般)

- ・ 県大前教室 (0824-72-0686) 月謝 2,000 円
金曜日 (毎週) 午後 1 時 ~ 4 時 30 分
 - ・ 敷信自治センター教室 (0824-72-0571) 月謝 1,000 円
木曜日 (第二、第四) 午後 1 時 ~ 4 時 30 分
 - ・ 庄原小学校前教室 (0824-72-1074) 月謝 1,000 円 (月 2 回)
月曜日 ~ 水曜日 (希望する日) 午後 1 時 ~ 4 時 30 分
- ※詳しくはお電話ください。0824-72-1074 (夜間を希望)
洲澤悦二 (庄原市西本町 2-11-19)

《情報 & 原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室 & 講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター (現地記者) 募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

第2回 庄原さくらフェスティバル

日時：4月9日 (日) 10:00 ~ 16:00 (雨天決行)

場所：庄原市上野総合公園 (芝生広場)

お問い合わせ先：庄原市観光協会庄原支部 ☎0824-73-0602

「がっつりごはん」「ときめき雑貨&フリーマーケット」「ゆったりカフェ」
「わくわくワークショップ」などイベントも盛りだくさん。

※どら書房も絵本を中心に出店しています。

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052 (赤川)
e-mail: touzin@sannet.ne.jp
年間購読料：2,000円 (郵送費込)

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会

編集後記

◇「県北現代小史」は、グループや組織の活動、歴史を中心に紹介。「県北群星伝」は個人にスポットを当てたもの。しばらく現代小史の企画が続く予定ですが、群星伝に登場していただく方も募集中。自薦、他薦、歓迎します。

◇「また読んでみたい本」は、一年の連載を経て「青年編」がスタート。どんな本が登場してくるか楽しみです。

◇「虫と草木と人びと」とは、私家版的な意味合いの強い本で、中村先生は現在、第三集を執筆中。豊富なデータと示唆に富んだ内容を、より多くの人に読んでいただきたいと、転載をお願いしました。

◇二年目の「どらくろあ」もよろしくお願ひします。

天正年間(440年前)に物々交換で始まった市(いち)が、昭和年代の戦争で途絶えましたが空き店舗を活用した市街地活性化ボランティア活動で、2001年に復活し存続しています。

「くちいち 庄原九日市」

第195回

平成29年 4月9日 (日)

トピックス 9:00~13:00

★市民ギャラリー「アート多愛夢」では
桐原つゆ子 針仕事展 日時 4月8日(土)~10(月) 10時~16時

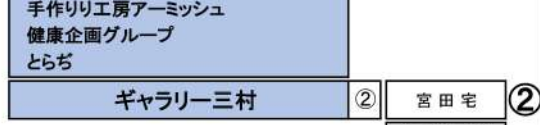
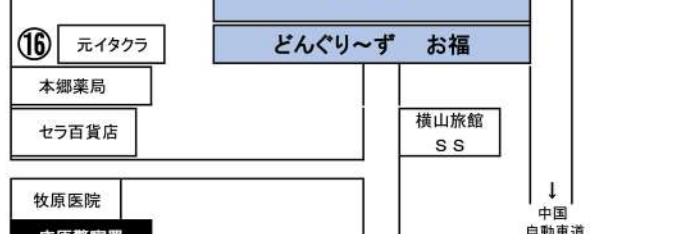
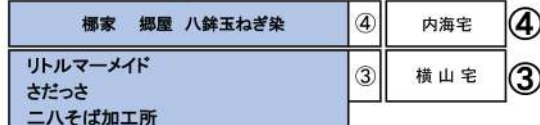
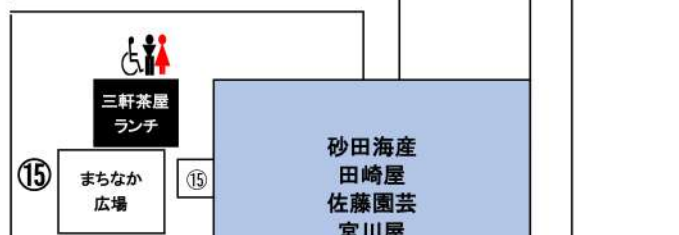
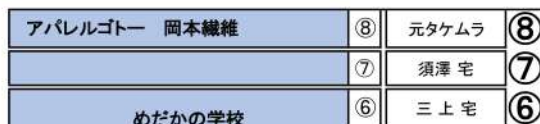
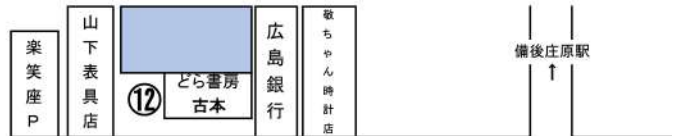
★初出店 『八銚自治振興区』さんです。

★コンビニ、レッツのすぐ近く(多田邸)で
(のぼりが目印)、キッチン・トイレ関連・家具・
家財等のフリーマーケット。早い者勝ち。
(株)庄原ハウジング090-7775-7283

★風龍……九日市スペシャル! 餃子200円!

★どら書房…営業時間 9:30~19:00

毎週 月曜日と火曜日はお休み



当日の天候により、断り無く
出店者・出店場所は変更する場合があります。

出店申込みは、
【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円~
九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 楽笑座 内
TEL / FAX (0824) 72-8285

備後庄原駅 ↑

↓ 中国自動車道 庄原1.C